

「新しい県立図書館」アイデアデザイン

～新たな知識の波を切り開く～

1、目指す方向

「知りたいこと」が、ここに来れば必ず解る。あたり前なことですがなかなか出来ないのが現状です。私たちは新しいレファレンスの形と図書館が東静岡駅周辺と一体となったデザインを提案します。

2、構成要素

(1)外観イメージ

- ・建物は半円形をしており、東面の一部がガラス張りになっています。他の面は青色で統一されており、遠目には全体が波のイメージです。グランシップが船、駅が港、図書館が波で地域全体に一体感を出しました。
- ・建物は駅の2階とデッキでつながっており、駅から直接入ることができます。

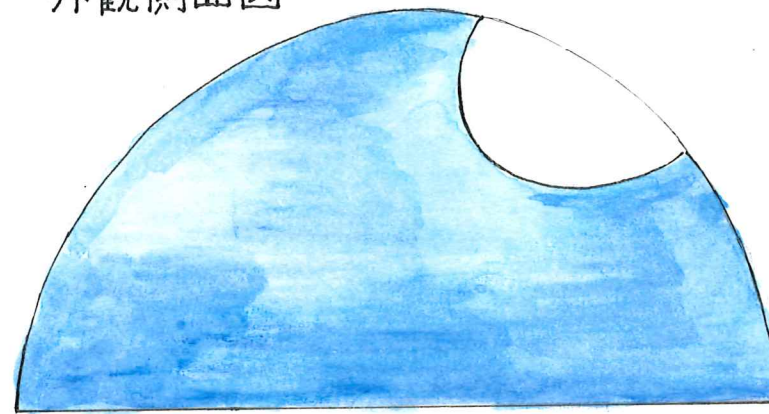
(2)内部イメージ

- ・1階はカフェや落ち着いた店舗、行政サービスの施設、展示スペースや作業室などを配置、2階からが閲覧室になります。駐車場は地下に設置します。
- ・最上階は展望フロアで、静岡県民は常に富士山を見ていたいと思います。
- ・中央にエレベーターと二重らせん式のスロープを設け、各階にはそこからスポーク状にデッキが伸び、書棚、閲覧室につながっています。
- ・閲覧は個々で使える部分とグループで使う小さなドーム型があります。感染症対策として感染が確認された場合は傘のような形のもので、個々を仕切ります。
- ・壁面は県内産の木を使い、音の反響を抑え、温かみとアットホームな感じにします。

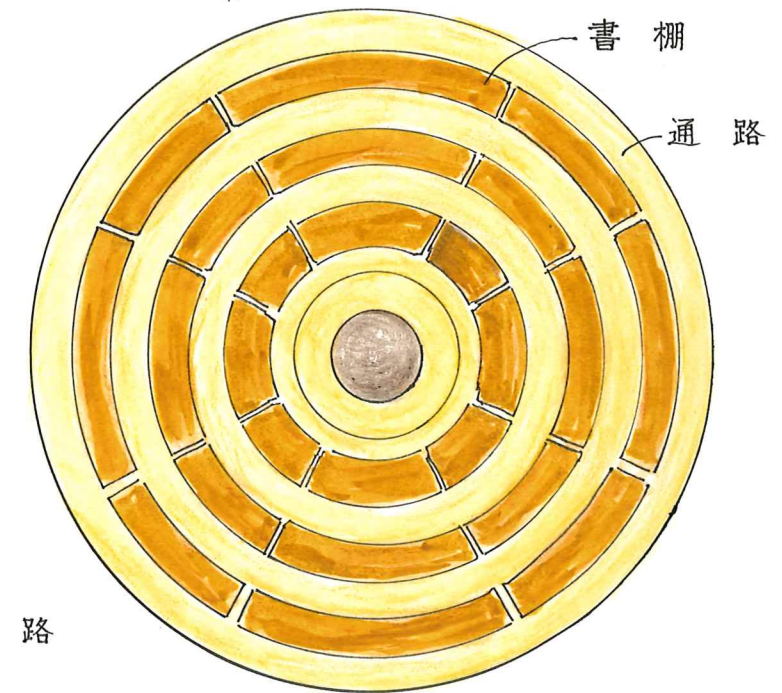
(3)図書館機能イメージ

- ・学校図書で最も困っていることは、司書の先生がおらず、レファレンスが出来ないことです。そこですべての学校図書データを県立図書館でも管理できるようにし、何時でも専門の司書の先生がレファレンスできるようにします。
- ・県立図書館の本を学校でもリモートのような形で閲覧できるように、ロボット化のようなシステムを構築します。
- ・県内の博物館、美術館、研究施設と連携し、それぞれの専門家の方が、レファレンスしてもらえるようなシステムを構築します。また、それぞれの機関に質問が寄せられると思いますが、図書館が一括して行います。
- ・これからはよりバーチャルなど視覚偏重の社会が予想されます。これは社会にとって必ずしも良いことではないと思います。五感を磨く場所が必要ではないでしょうか。そこで本に関する実物や臭い、触感、味などを感じられる企画を常に行います。

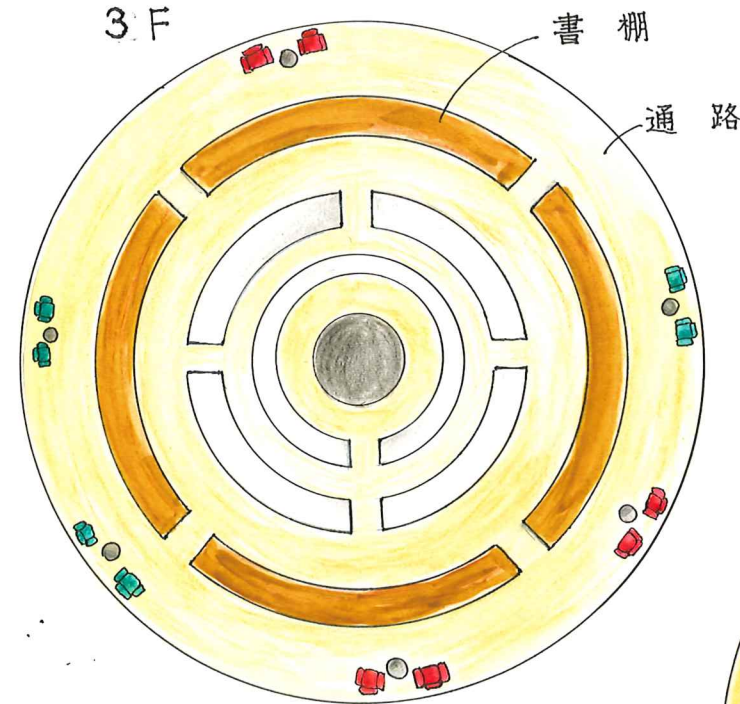
外観側面図



2 F

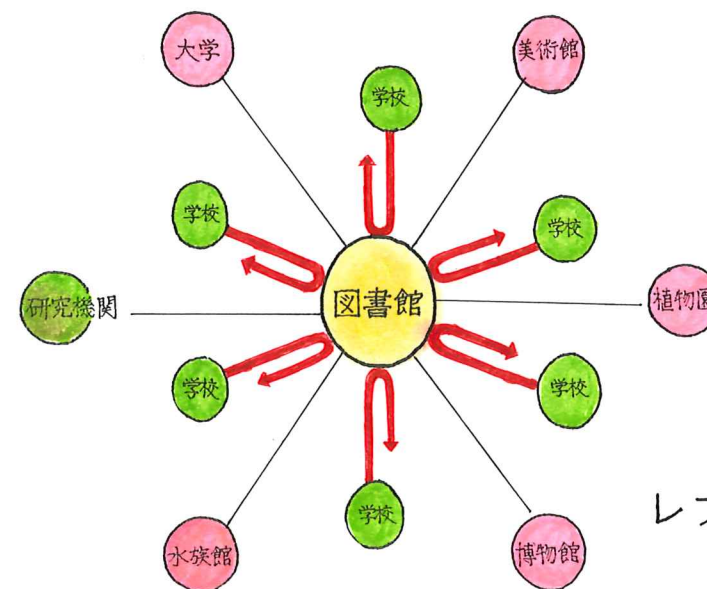
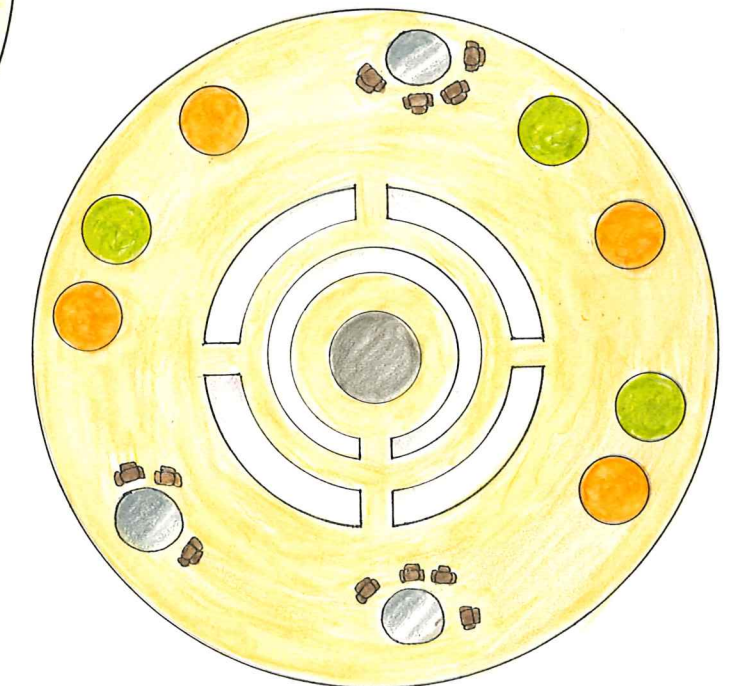


3 F



内部平面図

4 F



レファレンス
イメージ